

科目名		授業形態	担当教員名	
言語聴覚障害概論		講義	石井 喜代香・太田 信子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
言語聴覚士がかかわる言語・コミュニケーションのプロセスや、摂食・嚥下の仕組みと、小児から成人に見られるそれらの障害について種類や特徴などの概要について講義する。分野により2名の講師で担当し、ワークや体験を重視した講義を行う。また、言語聴覚士の歴史、職務や役割について講義する。現場の言語聴覚士科や当事者からの話を聞く事、施設見学あるいは当事者とのかかわりの体験を通し、障害や臨床現場のイメージを持つ。				
授業の到達目標				
1. 言語聴覚士の歴史や職務が理解できる。 2. 聞いて話すまでのプロセスについて説明できる。 3. 言語聴覚士の職務や求められる資質について理解できる。 4. 言語聴覚士の臨床についてイメージすることができる。 5. 代表的な言語聴覚障害についてイメージし、概要を説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	言語聴覚士の仕事と歴史的背景について			(石井)
2	聞いて話すまでのプロセスと言語障害の捉え方(吃音)			(石井)
3	小児の主だった言語障害について①(構音障害、脳性麻痺)			(石井)
4	小児の主だった言語障害について②(知的障害、発達障害)			(石井)
5	小児にかかわる言語聴覚士の臨床の流れと役割について			(石井)
6	成人になって言葉の障害を持つとは/失語症、構音障害①			(太田)
7	失語症、構音障害②、聴覚障害			(太田)
8	摂食・嚥下障害、話せない体験のまとめ			(太田)
9	言語聴覚士のかかわり(評価、診断)			(太田)
10	言語聴覚士のかかわり(指導、訓練)/他職種とのかかわり			(太田)
11	当事者からの話			
12	臨床現場に携わる言語聴覚士の話			
13	地域医療について			
14	施設見学あるいは当事者とのかかわりの体験			
15	〃			
成績の評価法と基準				
種別	割合			
定期試験	50%	石井25%、太田25%		
レポート	25%	話せない日のレポート5%、11～15のレポート各5%		
小テスト				
平常点	25%	各回の感想レポートを含む。		
その他				
自由記載	欠席した場合、その回のレポート提出はできません。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
絵でわかる言語障害 第2版	毛塚真知子	学研メディカル秀潤社		
言語聴覚士テキスト 第3版	岩田 誠 他	医歯薬出版		
言語聴覚療法シリーズ1 改訂言語聴覚障害総論 I	倉内紀子	建帛社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
11～15回の順序は入れ替わる場合があります。				